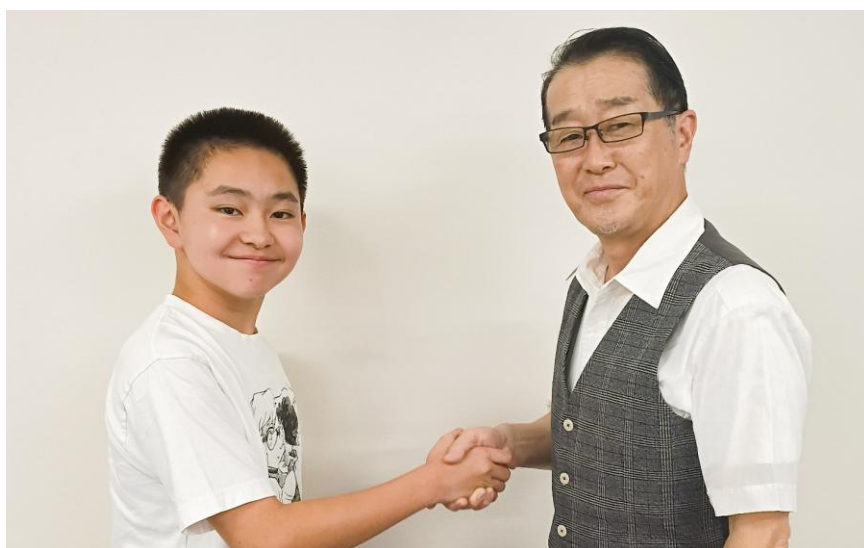


名門会で苦手だった国語を克服し、志望校合格！ 灘中1年生となった市丸さんが振り返る受験期



名門会と集団塾の併用で中学入試に挑み、2026年春 灘中合格をつかみ取った市丸友瑚さん。灘中生として初めて迎えた夏休みの帰省に合わせて、名門会熊本校を訪れてくれました。

友瑚さんは、国語の指導担当プロ教師の有田先生と久々の再会となりました。受験期の二人の間には、「[1] 分かったつもりにならないこと [2] 納得するまで質問すること [3] 思考・判断を『見える化』すること」という授業の「3つのルール」があったと言います。

常に課題に対してベストパフォーマンスで取り組み、最適な答えを導き出すことを大切にしていた当時のようすを、先生とともに振り返ってもらいました。

[プロフィール]



市丸 友瑚さん

灘中学校 1年生
名門会 熊本校OB（小2夏入会）
熊本大学教育学部附属小学校出身

合格校：灘中、西大和学園中、愛光中、真和中



有田 勝秋先生

名門会 国語担当プロ教師

合格実績：灘中・西大和学園中
久留米大附設中、福岡大附大濠中 他

【市丸友瑚さん】

灘中合格を目指して ―― 自分の強みを伸ばし、弱点を克服する学び

「僕が志望校を灘中に決めたのは小3の頃でした。灘中には各県のトップレベルの生徒が集まっていて、勉強だけでなく、文化祭などの学校行事にも目を輝かせながら楽しんでいるところに魅力を感じました。集団塾にも通っていましたが、得意な算数はもっと伸ばしたいと思っていました。一方で、苦手な国語は克服したいと考えていたので、自分の得意・不得意に合わせた授業を受けたいと思い、名門会にも通っていたんです」



疑問を残さない名門会の授業 ―― プロ教師の指摘に驚き

「名門会では自分に合ったオリジナルの授業を受けられ、先生も質問にすぐ答えてくださるので、疑問をそのまま残すということがありませんでした。毎回クリアな状態になって、いつも授業に満足できました。特に有田先生との最初の授業が印象的で、僕の私生活をまるで見ていたかのように、改善点を指摘されたときは驚きました。国語については基本を大切にやりつつ、『楽しむこと』を有田先生に教えていただきました」

あきらめなかったからこそ、つかめた合格 ―― 苦手だった国語が楽しめるように

「国語は有田先生の熱心な指導のおかげで、得意な算数と同じくらい楽しくなりました。入試本番も先生に教えていただいた通りに問題を解き、それまでのテストより高い点数を取ることができ、合格を勝ち取ることができました。合格がわかった日は、とにかく嬉しくて飛び上がって喜びました！ 頑張ってきたことが、ようやく実を結んだ瞬間でした」

灘中入学後も勉強に励む日々 ―― 受験生へ伝えたい、自分の思いを貫くことの大切さ

「合格が決まった後も名門会の授業を継続して受けていました。数学・英語は少しずつ中学の先取りを始めました。灘中生はみんなよくできるので、今は周りに追いつくことを意識して勉強しています。テストはまずまずな結果ですが、まだ満足できるものではありません。毎日大変なのは予想通りですが、入学してからやりがいを感じています！

僕も受験期は勉強してもテストで結果が出ない時期があり、自信を失いかけたこともありました。それでも灘中をあきらめませんでした。受験生のみなさんも結果に振り回されず、自分の思いを貫いてください！」

【有田 勝秋先生】

指導を通して見えた市丸さんの「課題」

「友瑚さんは『論理的に思考すること』に長け、目的意識が高く、集中力を欠くことのない生徒さんでした。筋道を立てて考える学習に加え、地道にコツコツ取り組む学習ができました。

とは言え、私が指導を担当した当初の小5の春は、まだ論理的に思考する力が十分に発達しきれていなかったように感じましたし、言葉の関係性を論理的に対処する学習経験がなく、『言葉を手掛かりに思考・判断・表現する力』をつける必要がありました」



「最適な学習内容」で論理的に思考する力を伸ばす

「友瑚さんの状況に合った、『最適なテキスト・学習内容』での指導を実践しました。その結果、当初のカリキュラムの40%程度は変更したように思います。独自にまとめた解法プリントなども活用し、友瑚さんにとって必要な学習を一つひとつ積み重ねていきました。

その結果、小6の4月頃になると『論理的な思考力』の発達に伴って、『文種ごとの読解技能』をスキルとして使いこなせるようになり、その成果が点数となって現れ始めました。毎回の学びを通して、苦手だった国語に対する捉え方も変わり、『国語が面白い!』と思えるようになったことは、大きな成長だったと思います」

受験直前期の過去問対策で合格への力を高める

「過去問については、単に問題を解くためのものではなく、合格に向けて『課題を見つけ、出題傾向への対応力を育成するためのもの』と位置づけ、5～6年分の過去問を通して、実戦的な力を身につけていきました。

文種ごとに言語技能を駆使して読解し、設問の特性に応じて対処することができるようになり、難関といわれる灘中2日目の問題も安定した正答率が確保できていました。

一方で、1日目の『漢字』『季語』などの設問では、正答率に安定を欠いていました。そこで、ご家庭のご理解と協力のもと、試験1カ月前から1日目対策の時間を増やしました」

国語が楽しめるようになったことが最大の要因

「文種の特性に応じた読解技能の習得により、論理的に読解する国語力と設問の特性に応じた的確な対処の仕方がスキルとして身につき、『国語もできる』という自信が友瑚さんに生まれました。『文章構造による読解スキル』と『設問対応力』が身に付いて、学習成果が出たことと、それに伴って、友瑚さんが国語学習を楽しむようになったことが灘中合格の大きな要因だと思います。ご家族も点数だけでなく、国語を楽しむ友瑚さんの姿を応援されるようになり、友瑚さんの学習姿勢が変わったと記憶しています。何より、友瑚さん、ご家族と私たち名門会との間に信頼関係が生まれたことも大きな要因だったと思います」

最後に友瑚さんは、ご両親がサポートしてくれたことへの感謝を述べ、「心配をかけたり、迷惑をかけたりしていたけれど、中学生になったから、何でも自分で考えていけるようにがんばります!」と、今後の意気込みも語ってくれました。

受験期を経て、一回りも二回りも大きく成長された友瑚さん。
夢の実現に向け、灘中学校・高等学校でさらなる飛躍を遂げられることを、熊本校一同、心より応援しています。